

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成27年12月22日

協議会名: 尾鷲市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通	尾鷲市コミュニティバス八鬼山線 瀬木山～三木浦～三木里駅前 三木里駅前～東古江	聞き取り調査からおおむね満足しているとの回答が多く、これまで路線延長や停留所の増設、時刻改正など行ってきた結果、利用者の一定の理解を得られている路線であると考えられる。	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	A アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(0を基準とし最大地+2、最小値-2)、目標の0.74に対して0.76で、目標を達成した。	引き続き、利用促進を図るため、聞き取り調査等を行い利便性の向上に取り組む。
三重交通	尾鷲市コミュニティバスハラソ線 天満堤防～三木里駅前～梶賀	聞き取り調査からおおむね満足しているとの回答が多く、これまで路線延長や停留所の増設、時刻改正など行ってきた結果、利用者の一定の理解を得られている路線であると考えられる。	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	A アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(0を基準とし最大地+2、最小値-2)、目標の0.91に対して0.91で、目標を達成した。 この路線は満足度が一番高い路線で、一定のニーズを満たすことはできた。	引き続き、利用促進を図るため、聞き取り調査等を行い利便性の向上に取り組む。

尾鷲市	尾鷲市コミュニティバス尾鷲地区 尾鷲駅～朝日町～紀伊松本 尾鷲駅～光ヶ丘～尾鷲駅	聞き取り調査からおおむね満足しているとの回答が多く、これまで路線延長や停留所の増設、時刻改正など行ってきた結果、利用者の一定の理解を得られている路線であると考えられる。	A	運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	A アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(0を基準とし最大地+2、最小値-2)、目標の0.85に対して0.85で、目標を達成した。 聞き取り調査から「市民のバス」として定着してきていることが感じられた。またスーパーとのタイアップ事業なども定着してきているのが満足度向上につながっていると思われる。	引き続き、利用促進を図るため、聞き取り調査等を行い利便性の向上に取り組む。
尾鷲市	尾鷲市コミュニティバス須賀利地区 旧小学校前～島勝	利用者から、須賀利市街地間の料金負担軽減が求められており、改善に向けて検討した結果、平成27年4月から、三重交通が運行する島勝線へ乗継した場合、乗継割引する支援を行い、運賃の平準化を図った。	A	運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	A アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(0を基準とし最大地+2、最小値-2)、目標の0.76に対して0.78で、目標数値となった。	引き続き、利用促進を図るため、聞き取り調査等を行い利便性の向上に取り組む。 利用者からは、市街地までの直通便が求められており、改善に向けて検討していく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成27年12月22日

協議会名:	尾鷲市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市は、市域の約92%が山林で、沿岸部には変化に富んだリアス式海岸が形成されるなど、豊かな自然環境に恵まれている一方、市街地周辺部には10ヶ所の集落が点在し、それぞれの地域において過疎高齢化が進行していることから、これらの各地域の公共交通をいかにして結ぶかが重要な課題とされてきました。</p> <p>本市の公共交通機関は、鉄道、路線バス、タクシーがその役割を担っています。鉄道はJR紀勢本線、路線バスは「尾鷲長島線」、「島勝線」、「ふれあいバス尾鷲地区」、「ふれあいバス須賀利地区」、「ふれあいバスハラソ線」、「ふれあいバス八鬼山線」と、都市等を結ぶ長距離バスが運行されています。</p> <p>少子高齢化・過疎化等の理由により、本市の高齢化率は年々増加傾向にあり、通勤や通学で利用する人口も減少を続け、公共交通サービスを維持確保していくためにはより多くの市民が公共交通を利用する必要があり、まちづくりと一体となった公共交通の利用促進が求められます。</p> <p>これを実現するために、市民ニーズに応じた生活交通を確保することを目的として、地域公共交通確保維持改善事業に取り組んでまいります。</p>

尾鷲市地域公共交通活性化協議会

平成20年5月28日設置

フィーダー系統

平成27年5月25日NW計画策定

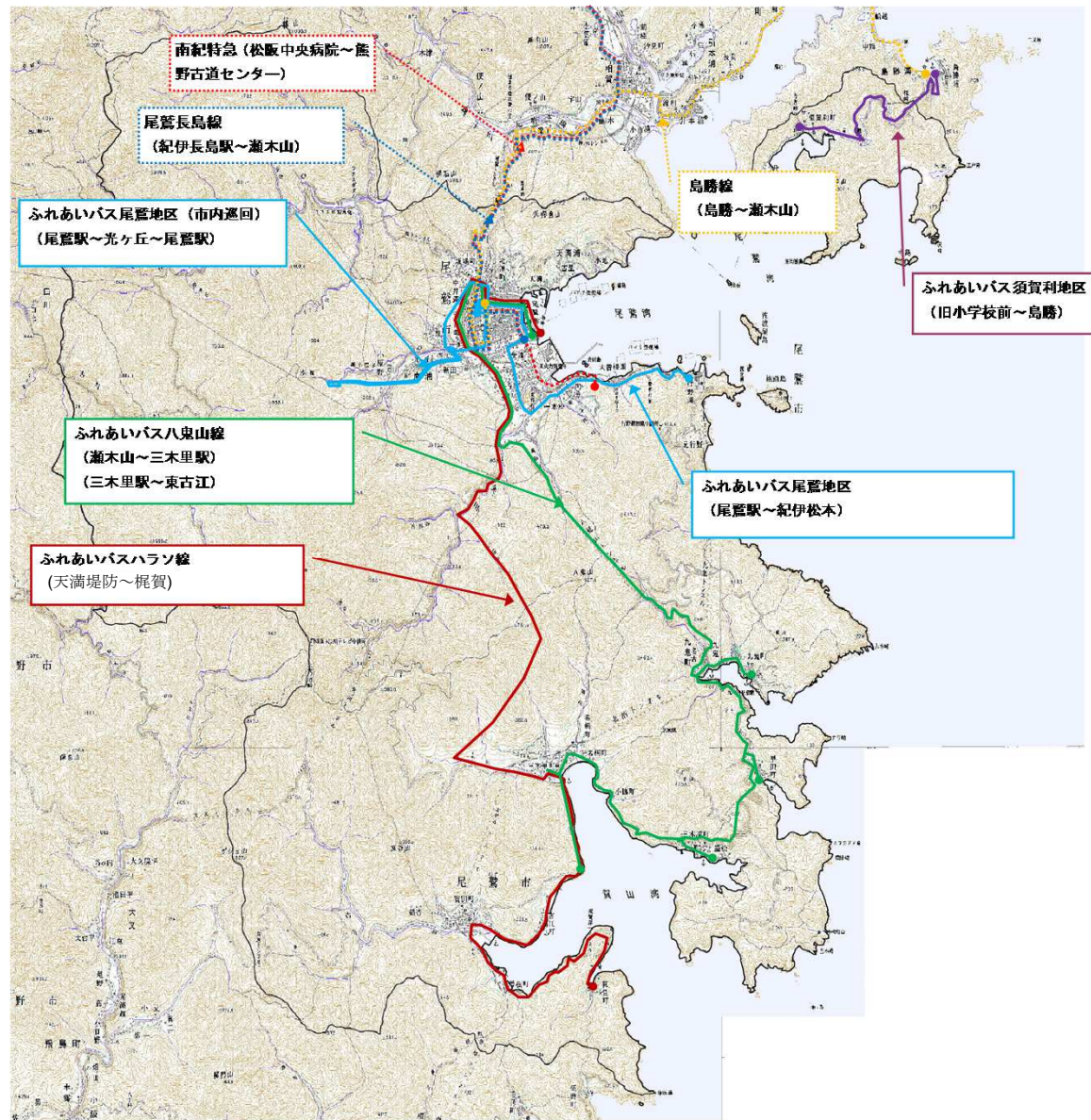
①協議会が目指す方向性(Plan)

本市は、市域の約92%が山林で、沿岸部には変化に富んだリアス式海岸が形成されるなど、豊かな自然環境に恵まれている一方、市街地周辺部には10ヶ所の集落が点在し、それぞれの地域において過疎高齢化が進行していることから、これらの各地域の公共交通をいかにして結ぶかが重要な課題とされてきました。

本市の公共交通機関は、鉄道、路線バス、タクシーがその役割を担っています。鉄道はJR紀勢本線、路線バスは「尾鷲長島線」、「島勝線」、「ふれあいバス尾鷲地区」、「ふれあいバス須賀利地区」、「ふれあいバスハラソ線」、「ふれあいバス八鬼山線」と、都市等を結ぶ長距離バスが運行されています。

少子高齢化・過疎化等の理由により、本市の高齢化率は年々増加傾向にあり、通勤や通学で利用する人口も減少を続け、公共交通サービスを維持確保していくためにはより多くの市民が公共交通を利用する必要があり、まちづくりと一体となった公共交通の利用促進が求められます。

これを実現するために、市民ニーズに応じた生活交通を確保することを目的として、地域公共交通確保維持改善事業に取り組んでまいります。



②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス(Do)

地区の方による住民アンケートや路線沿いの違法駐車への注意喚起を行ってもらうことで、バスへの親しみを持ってもらえるよう取組んだり、運行開始前に運転手の紹介や、乗降の仕方の説明等の「乗り方説明会」を開催し、バス利用促進に取り組んでいます。

バスへの乗車時の負担軽減を図るため、ふれあいバスハラソ線へは、平成26年10月からワンステップバスを導入しました。

ふれあいバス須賀利地区について、接続している三重交通島勝線への乗り継ぎ利用者に対して補助を行い、利用者を増やすための取り組みを始めました。

③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価(Check)

- 全4路線の全体収支率(平成26年4月～平成27年3月末まで)は27.0%で前年度の30.5%に比べ減少している。路線別の利用者数及び収支率(平成26年4月から平成27年3月末まで)は、①ふれあいバス「尾鷲地区」が16,698人、19.2%、②ふれあいバス「須賀利地区」が2,189人、2.2%、③ふれあいバス「八鬼山線」が22,876人、29.9%④ふれあいバス「ハラソ線」が16,278人36.7%となっており、周辺地域の人口減少、高齢化が進んでいることも利用者減の要因のひとつといえるが、新たな顧客獲得ができていないことが挙げられる。
- 市街地循環型のふれあいバス「尾鷲地区」については、年々利用者が増加しており、アンケート調査からも「市民のバス」として定着している。引き続き利用促進を図りたい。
- 平成24年10月から運行開始したふれあいバス「須賀利地区」は、収支率2.2%とかなり低い数字となっているが、路線沿線の人口が少ないことに加え、人口が減少傾向であることから、収支率は悪化することが推測される。

④自己評価から得られた課題とその対応(Action)

バス利用者アンケートでは、都合のよい時間にバスがない、運行本数が少ない、運賃が高い、JRとの連結が悪い、バス停までが遠い等の理由があげられました。

1路線1台のバスで運行しているため、1つの地区の要望を満たそうとすると他の地区へ影響がでたりと、すべての要望を満たすことは難しいが、地区住民との話し合いのもと改善について検討しており、できる限り市民の要望に応えられるよう取り組んでいきます。

須賀利線については、今後、須賀利地区住民との話し合いのなかで、利用状況を説明し、利用促進を図るとともに改善に向けて検討していかなければいけない。

⑤アピールポイント(特に工夫した点)

<地域における利用者の把握>

毎年、バス車内、停留所において利用者アンケート調査を実施している。

<乗り方説明会の実施>

新規取り組みの導入時に、地域住民を集めて説明会を開催した。

<利用促進>

地元スーパーとのタイアップ事業(乗車割引券)